

4月19日に、本校3年生155名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

国語A、Bと数学Aでは全国平均および京都府平均を上回っています。数学Bでは、全国平均を上回りましたが、京都府平均を若干下回っています。問題によっては、あきらめてしまって解答を書かない生徒も見られました。進路実現に向けて、あきらめない心を育てる必要性があります。

国語科より

全体的によくできています。

国語A「主として知識」、国語B「主として活用」とともに、安定した力を発揮しています。しかし、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題、古典的な言い方の意味を問う問題など、「古典」に関する分野で、平均をやや下回っているものがあります。また、基礎的なことはできていますが、応用する力に弱さが表れています。

・古典に親しもう



数学科より

数と式、図形の領域で良好な結果です。

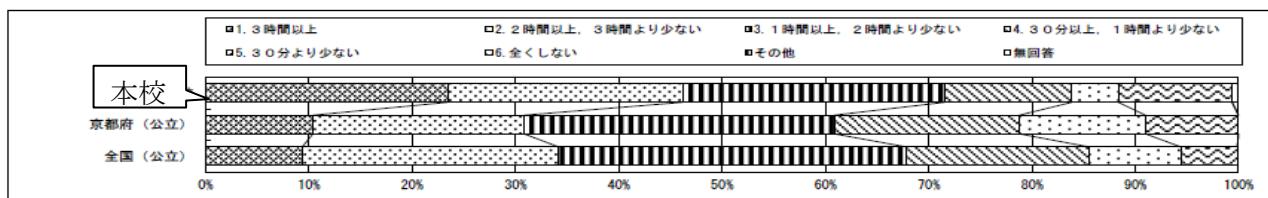
数学A「主として知識」では、不等式の意味の読み取り、作図に関する理解、近似値の意味などに関する問題で平均をやや下回りました。

数学B「主として活用」では、与えられた情報の中から必要な情報を選択して処理したり表現したりすること、グラフの傾きを活用することなどの問題で、平均を下回っています。自分の弱点を自覚し、計画的に復習する力が求められているといえます。

復習しよう！
「作図」「資料の活用」

生徒質問紙調査から①

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか
(塾・家庭教師含む)



学校の授業時間以外に、普段2時間以上勉強している生徒が、50%近くいることは平均を大きく上回り、学習への関心の高さを示しているといえます。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対しては、「している」生徒が10%ほどしかなく、平均を下回るとともに、「学習」を自分で計画的に進めている生徒が少ないという実態がうきぼりになっています。

生徒質問紙調査から ②

Q 学校に行くのは楽しいと思いますか。



学校に行くのは楽しいと思っている生徒が平均を大きく上回っています。生徒会活動をはじめとする魅力ある学校づくりが功を奏していると考えられます。また、「学校で友達に会うのは楽しいと思う」生徒が80%ほどあり、充実した中学校生活を送ろうとしている様子が伺えます。一方、学校に行くのが楽しいと思えない生徒や友達に会うのが楽しいと思えない生徒も少数ながらいます。学校として、生徒一人ひとりの声に耳を傾け、楽しい学校づくりに一層の努力を重ねてまいります。

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒が80%を超える、平均を大きく上回っています。学校と地域が協力して取り組むクリーン活動などをこれからも大切にしていきます。

全体を通した本校の成果と課題

本校の生徒は、相対的に学習への関心が高く、勉強は大切だと思っている生徒が多い傾向です。その結果、国語も数学も学力の定着はよく、成果として点数に表れています。しかし、国語や数学の勉強が好きかと聞かれれば、「好きだ」と答える生徒は平均を下回ります。高校進学に向けて、やらなければいけないと強く思っているのですが、自ら進んで楽しく学習しているとは言えないようです。

本校では、自学自習できる生徒を育てたいと思っています。前の学年で学んだ内容・前のテスト範囲の内容などを自分で復習し、実力をつけてほしいと願っています。授業ごとの「めあて」に対して自分の学びを「振り返る」ことで客観的に自分の学びをとらえることができるようになると考えています。

保護者の皆様へ



全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、前の学年での学習内容を忘れていたり、基礎的なことを活用したりするところに課題がみられましたが、概ね前向きな学習の成果が表れています。これは、保護者の皆様の、ご家庭でのお子たちに対する積極的な関わりやご指導・ご支援の成果です。これからも、引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力ををお願いいたします。